

幹部ブログバックナンバー

～最近観た映画のお話～

投稿者

郡山翔平

2011年12月～2012年10月

- 1p・・・『ロッキー』(1976)
- 2p・・・『吸血鬼ノスフェラトゥ』(1922)
- 3p・・・『ヒミズ』(2012)
- 6p・・・『TIME／タイム』(2012)
- 9p・・・『ものすごくうるさくて、ありえないほど近い』(2012)
- 13p・・・『ヒューゴの不思議な発明』(2012)
- 16p・・・『アンダルシアの犬』(1928)
- 17p・・・『戦火の馬』(2012)
- 20p・・・『戦艦ポチョムキン』(1925)
- 22p・・・『無防備都市』(1945)
- 26p・・・『道』(1954)
- 30p・・・『メトロポリス』(1927)

2011 年 12 月 20 日

『ロッキー』(1976)

郡山ですこんにちは。そろそろ私も日記を投下しますね。

最近合評会と名画座で忙しかったので、やっと肩の荷が下りた気持ちです。

合評会にも名画座にも、来てくれた皆さん本当にありがとうございました。

若輩者で至らない点多々ございますが、次回もまたよろしくお願ひします m(_ _)m

榊くんが『ロッキー』を観てくれたのですね。

私が合評会引率の時にしゃべり倒して興味を持ってくれたのでしょうか。

自分の言葉が影響を与えているというのは嬉しいものですね。

私も『ロッキー』についてしゃべりましょうか。

新映画狂時代ですね。(スケール小さいですけど。)

ロッキーは好き嫌いが分かれる映画だと思います。

アメリカン・ニューシネマの特色はリアリティなので、ボクシングシーンの流血がすごいんですよ。

私はそこが好きなんですけど。

当時のシルベスター・スタローンは 50 回オーディションに落ち続けて、失意の底にありました。

「俺に合う映画がないなら自分で作ってやろう」と書いたシナリオが『ロッキー』です。

シナリオの買い手もついてたんですけど、

「金額はいくらでもいいから俺に主演させろ」と譲らなかったのです。

ロッキーはスタローン自身で、『ロッキー』はスタローンの人生をかけた戦いだったのです。

ハリウッドの量産品でなく、スタローンの魂の叫びだったからこそ、

多くの観客の共感を得たのでしょうね。

2012 年 1 月 9 日

『吸血鬼ノスフェラトゥ』(1922)

吸血鬼ドラキュラの最初の映画化です。

原作の著作権が得られなかったので独自の解釈で話の筋を変更したのですが、これがかえって作品にオリジナリティを持たせています。

一般的な吸血鬼は、鋭い犬歯を持ちコウモリやオオカミを連想させますが、ノスフェラトゥは、鋭い前歯を持ち一本も髪の毛が無く、ネズミを連想させます。

ドイツ表現主義映画の代表的作品です。

ドイツ表現主義の特色は、激しい感情表現、黒と白の強烈なコントラストと強烈なデフォルメです。

当時のヨーロッパでは、第一次世界大戦を経験する中で、伝統的な価値観への強い反発が芽生えていました。

そこでフランスのシュルレアリスムや、ドイツ表現主義など、既存の芸術を否定する前衛芸術が生まれました。

非現実的な造形で当時の混沌とした社会の不安や人々の抱く恐怖を描き出したのが、ドイツ表現主義映画なのです。

強烈なデフォルメとは具体的には、手足の長さを強調したり、手足の先端を尖らせたりする映像表現を指します。

『吸血鬼ノスフェラトゥ』では、オルロック伯爵の影が不気味に伸びていくシーンが有名です。

要するに奇形です。これはティム・バートンの異形への愛へと繋がっています。

『バットマン・リターンズ』では悪役名にマックス・シュレックと名付けています。

ノスフェラトゥを演じたマックス・シュレックという名はドイツ語で「最大の恐怖」という意味で、その経歴も不明でした。

その人間離れした不気味な演技も相まって、本物の吸血鬼ではないかという噂がまことしやかにささやかれました。

このマックス・シュレックが本物の吸血鬼ではないかという噂を映画化したものが、前年度にやぶうち先輩が映画狂時代の中で紹介なさっていた『シャドウ・オブ・ヴァンパイア』という作品です。

白黒映画だからこそ陰影が強調されて恐ろしいのです。

サイレントだからこそ味わる静かな恐怖もあるのです。

デヴィッド・リンチ作品、ティム・バートン作品などの、奇形をモチーフにした作品の原点であるドイツ表現主義を是非味わってみてください！

2012 年 1 月 29 日

『ヒミズ』(2012)

本当はもう少し推敲しようと思っていたのですが、続々と『ヒミズ』の評論が投下されていくので、私も黙っていられなくなりました。駄文で失礼致します。

頑張ってネタバレを抑えたので未見の方も安心してお読み下さい。

ベストテン号をお読み下さった方は分かるかと思われませんが、私は園子温監督の大ファンなのです。園子温の攻撃的な表現が私は大好きです。しかし傑作だと認めた上で、批判せざるを得ない点もあると私は考えます。

東日本大震災の被災地で撮影され、公開される初めての映画。

批評家達の間でも評価が分かれています。

園子温監督作品の特徴は、強烈な暴力描写による激しい感情表現です。

人間の内面に潜む狂気を剥き出した役者達の魂の叫びと園子温の演出が相まって、観る者の感情を妖しく揺らめかせるのです。

その意味で大変爽快な映画でした。この世界は理不尽です。その理不尽な世界の奔流にさらされていけば、色々と言いたいこともあります。

それでも私達は人間の内面に潜む狂気を剥き出して暴れることは出来ません。私達が普段思っていることを映画の中で役者達に代弁させることが園子温は非常に巧いのです。

ネタバレになるので多くは語れませんが、一つ秀逸なシーンを紹介しておきます。

部屋のテレビに映し出される宮台真司氏が原発事故について解説する言葉と役者達の心情がピッタリとリンクするシーンがあります。

淡々と続く解説の言葉は、役者達の暴力を加速させます。

それと同時に、この世界の理不尽なものの存在を観客に意識させ続けます。

人々に突如襲いかかった理不尽な大震災。

その中でも狂気を内包しながら生きていく人々を描いています。

主人公とヒロインは親から死を望まれています。その理不尽な辛さの中で狂いながらも生きていく姿が大震災の被災地とオーバーラップします。

園子温は「正しい」ことを言う自分に酔う人間を非常に不快に描くことに定評があります。

「スミダガンバレ」と言う教師の言葉は、ヒロインから放たれることで主人公を後押しします。

このガンバレという言葉は、大震災の被災地の人々にも向けられます。

ここで避けて通れない批判があります。

「主人公とヒロインの辛さは、大震災の被災とは違う。被災地のシーンを映画の随所に挿入する必然性は無い。これは大震災の知名度を利用し、食い物にした映画ではないのか。」

これはある意味では妥当な批判だと私も考えます。

大震災を受けて急遽脚本を修正し、それが映画のメッセージ性を強めているという意見もあります。

しかし、人々の背景に何らかの理不尽な辛さが必要で、偶然大震災が起こったからそれを背景に設定したとも言えます。

主人公が被災した訳ではないですし、ストーリーとしては理不尽さの背景に大震災が無くても良いのです。

個人的には、被災者へのメッセージを挿入したことは作品としてはマイナスになったと思います。

理不尽さの中での人間の狂気だけを一貫して描いていれば手放しで称賛出来ました。

しかし無理に被災者へのメッセージを挿入したことで、異質な二つのテーマが混線し、メッセージ性が揺らいでいると私は感じました。

この映画も傑作には違いないのですが、私は園子温ならさらに凄まじいものが作れると過去の作品から知っています。

テーマを一つに絞ればさらに良いものを作れたと私は考えます。

理不尽な不幸の中での狂気の発露とは非常に現実主義的なテーマです。

それと被災者への応援という前向きなテーマは相反するものだと私は考えます。

この未曾有の大災害を記録したいという表現者の気持ちは分かりますが、それをこの映画で表現することは、この映画にとってマイナスだったと私は考えます。

被災者の感情もありますし、現実主義的なテーマばかり全面に押し出す訳にもいかなくなります。

被災者へのメッセージを籠めるのであれば、最初からそのテーマを描くための映画を組み立てるべきだと私は考えます。

恐らく園子温自身も、「ただでさえ頑張っている人間にガンバレと言うのは残酷過ぎる」と批判されることは分かっていたのでしょう。

だから冒頭で「正しい」人間に気持ちの悪い「正論」を語らせたのです。

それでも頑張れとしか言えない。

「正しい」ことを言う自分に酔うために放たれた「正論」は、愛をもって放たれることで、相手の心に響く。

皆それぞれ理不尽な世界の中で苦しんでいて、その辛さに違いはあっても優劣はない。

生きることは死ぬことよりも辛い。

これは頑張れという月並な言葉でしか表現出来ないが、頑張って生きるしかない。

生きて欲しい。

これがこの作品から私が感じたメッセージです。

ネタバレ有りで評論を書く機会があれば他にも色々と言わせて頂きたいこともある映画ですが、園子温の暴力と狂気の演出は健在で、大変爽快な映画であったことは間違いありません。

2012 年 3 月 5 日

『TIME／タイム』(2012)

郡山ですこんにちは。

最近少しずつ名画座のレジユメ作りを進めているんですよ。6 月まで進みました。黒澤明とそのオマージュには重要な作品が多過ぎて、関連作品に触れていくのはなかなか大変でした。それでも解説だけなら 1 万字くらいには抑えたので、気になる部分だけでも読んでくれると嬉しいです m(_ _)m

『野良犬』とか、『悪い奴ほどよく眠る』とか、時代劇以外ではカバーできてない作品もいくつかあったんですけど、春休みに観ました！

やはり黒澤明には傑作が多いです！

皆さんも観ていた方が良いでしょう～

ブルーレイで買ったので、DVD をレンタルするよりは画質も音質も良いです！多くの皆様のご来場をお待ち致しております！

あとスタンリー・キューブリックのレジユメがですね、別の意味ですごいことになりました（笑）。頑張って解釈したので、まあ待って下さい（笑）

書くことが無くなったので最近観た映画の話でも。

『ドラゴン・タトゥーの女』も面白かったです。

ルーニー・マーラの演技が壮絶でした。スリに対する暴力的な描写を序盤に挿入することで、後のルーニー・マーラの行動に説得力を持たせる手法は優れています。

展開もスピーディで、登場人物達の有能さを感じさせます。

『ドラゴン・タトゥーの女』はメッセージを解釈する作品ではない気がするので今回は別の作品について考察します。

『TIME／タイム』(2012)

通貨を時間に置き換えることで資本主義を批判しています。

SF は問題提起のツールとして頻繁に利用されます。

『2001 年宇宙の旅』『惑星ソラリス』『ブレードランナー』の世界三大 SF と呼ばれる作品においても、それぞれの問題が SF に置き換えられて描かれています。

経済学とは非常に難解で、一般人には理解することが難しいものです。

資本を時間に置き換え、1 つのストーリーにまとめることで分かり易く資本主義の問題を提起する発想は秀逸です。

現在では資本主義は崩壊の局面を迎えているとされています。

貧困家庭に生まれた子どもには勉強できる環境が整わず、結果として貧困は再生産されます。貧困は自己責任だと富裕層は主張しますが、子どもに罪はありません。

自己責任論は富裕層が資本を独占し続けるための詭弁であることが露呈しつつあります。

富裕層が時間を独占し続けるために貧困層を寿命で死なせるという構造は、現在における資本主義の状況を巧みに表しています。

誰かを踏み台にして少数の人々が幸福を享受してはならないということがこの映画のメッセージです。

設定は秀逸で、設定を聞いただけで観たくなる方も多いと思われそうですが、ストーリーにおける欠陥を三点程私なら指摘します。

序盤で、主人公は富裕層から貧困層にわざわざやってきた自殺志願者に会います。彼から 100 年という時間を譲り受けることで、主人公の人生は変わっていきます。

彼は最後に、「君なら私の時間をどう使うか」と問いかけますが、彼の存在は忘れ去られてしまい、時間通貨システムの問題の是正に主人公の目的がすり替えられ、彼の問題提起は解決されません。

物語の中で問題を提起するならば、最後には何らかの答えを提示しなければなりません。

中盤で、父親も主人公と同じ疑問を持っていたことが明かされます。ここで、父親が何をしようとしていたのかを知るという伏線が張られますが、これは回収されることなく物語は幕を閉じます。

冒頭で、何故このような世界になってしまったのかという問題が提起され、その秘密の全貌を明らかにするという目標が設定されますが、富裕層が時間を独占し続けるために貧困層を寿命で死なせるという構造が明らかになった程度で目標が達成されたことになってしまいます。

一つの物語としては意外性に欠けます。

現実の資本主義においては特定の個人が悪い訳ではないことは分かりますが、実態があやふやな敵と戦っては、物語としては面白くありません。

資本主義を物語の中で批判するのであれば、資本主義のいわゆる「悪」の架空の根源を設け、それとの戦いを物語全体を通して描くべきだったと私は考えます。

ソヴィエト・モンタージュ映画など、特定の個人に焦点を当てない映画は存在します。

しかし『TIME/タイム』は、ハリウッド的個人主義の枠内で制作されています。

個人の視点で物語を進行させるなら、個人を倒せば何らかの形で問題が解決される架空の構図を映画の中に設けるべきだったと私は考えます。

善と悪の二項対立は現実には即していませんが、娯楽映画の中で頻繁に用いられてきたことには理由があります。ストーリーが明快になることで、観客がどこを面白いと感じるべきかが明確になるのです。

結論としては、資本主義を批判することに集中するあまり、物語がないがしろにされると私は考えます。

設定は魅力的で、伏線も張られていて、うまく回収すれば魅力的なストーリーに昇華させる余地があったと私は考えます。

最もメッセージ性の強い映画の 1 つとして、ナチスのプロパガンダ映画を挙げることが出来ると私は考えます。

ナチスの宣伝相ゲッペルスは、エンターテインメント的プロパガンダを主張しました。主張を明らさまに表現するのではなく、魅力的なストーリーの中に皮肉を織り込むことで、より観客の心にメッセージが刷り込まれるとゲッペルスは考えたのです。

メッセージの内容はともかく、ゲッペルスの映画に対する姿勢には見習うべき点もあると私は考えます。

芸術の価値を決定する要素の 1 つに、メッセージ性の強さが挙げられます。

しかしそれだけでは傑作とは成り得ません。

映画で社会問題を批判するのならば、魅力的なストーリーが伴わなければならなかったと私は考えます。

時間を賭ける命を賭けたポーカーでの主人公の演技の迫力、時間をなくした人物とのドラマチックな別れなど、1 つ 1 つのシーンには見所も多いです。

しかし全体としてのストーリーの盛り上がりには欠けると私は感じました。

細かい所を気にしなければ楽しめますし、最後のメッセージも示唆的です。

観てみる価値はある作品だと私は考えます。

2012 年 4 月 9 日

『ものすごくうるさくて、ありえないほど近い』(2012)

郡山ですこんにちは。

この作品では複雑な人間関係が描かれていて、多面的な解釈が可能です。この記事は、あくまで一つの面に焦点を絞ったメッセージの解釈です。具体的なネタバレを抑えて抽象的なメッセージのみを抽出したので、未見の方も安心してお読み下さい。

『ものすごくうるさくて、ありえないほど近い』(2012)

この映画が描いているものは、9.11 テロ事件で父親を失うことにより PTSD を負った、アスペルガータイプの発達障害を持つ少年の、行動認知療法の過程です。アスペルガー症候群という名前を作中に出すだけあって、症状は忠実に描かれています。

人によって感動出来るかどうか分かる作品です。理由は2つあります。

1つ目の理由は、アスペルガータイプの発達障害を持つ少年の行動が一般的な感覚から外れ過ぎていて感情移入し難いということです。

芸術の鑑賞には、鑑賞する人の人生が反映されます。例えば、ヒューマンドラマを愛好する人とサスペンスを愛好する人では、同じ映画を観ても正反対の感想を持つ可能性があると言えます理解し易いと思います。この場合、演技と起承転結など、着眼点が違うことが原因です。人生は人それぞれ違って当たり前なのですから、映画を観た感想も人それぞれ違って当たり前なのです。感想が人それぞれ違って当たり前なのですから、映画の感想を述べる際には、何故自分はそのような感想を持つに至ったのかという理由を説明して、相手を説得しなければならないと私は考えています。

私は色々な人々に嫌われてきたせい、**「異形故に苦しむ登場人物」**に異常に感情移入してしまいます。デイヴィッド・リンチ監督の『エレファント・マン』の中盤の、主人公が主治医の妻と初めて対面して、「こんなに美しい女性に優しく接して貰ったことがなくて……」と言って泣き出すシーンは、主人公が可哀そう過ぎて胸が締め付けられるような思いで観ていました。私は奇形をテーマにした映画を愛好しています。宿命的な不幸により葛藤する登場人物に異常に感情移入してしまうのです。私はそんな人間ですし、アスペルガー症候群や行動認知療法の知識も少々持っていたので、この作品には異常に感情移入出来て、心を揺さぶられてしまいました。

2つ目の理由は、母親の序盤の印象が悪過ぎるということです。序盤で、少年の態度が悪いとして母親が大声で怒鳴るシーンがあります。アスペルガー症候群と一口に言っても、そ

の症状は人により千差万別ですが、発現し易い症状の一つに聴覚過敏があります。『ものすごくうるさくて、ありえないほど近い』というタイトルは、アスペルガー症候群の症状を表しています。母親は、怒鳴り声によりパニック発作を起こして耳を塞いでいる少年の耳元で怒鳴っています。その印象の悪さは、この母親はアスペルガー症候群に対する周囲の無理解の象徴として描かれているのだろうと私が推測した程でした。アスペルガー症候群は先天性の脳機能障害であることが分かっているので、怒鳴っても治りません。怒鳴ることで言葉が耳に入ったとしても、本人が関心を持たない限り頭には入りません。この作品がアスペルガー症候群について調べた上で映画化されているのであれば、ソーシャルスキルズトレーニングの過程で怒鳴ってはならないことは監督も知っていたはずで、全体としてはこの作品は気に入りましたし、このシーンにも意図があることは分かりますが、ここまで母親を不快に描く必要は無かったと私は考えます。理由も無く他人を傷つけることを言うってしまうこともアスペルガー症候群の1つの症状なのです。

少年の考え方を尊重していたのは父親だけでした。少年の考え方を否定せず、少年の関心に沿った形で、ソーシャルスキルズトレーニングを施していきます。具体的には、探検の調査のためには周囲の人にインタビューをしなければならないというルールを設定しています。そのような父親だからこそ、父親の言うことにだけは従い、少年も他人を傷付ける言動は控えようと努力していて、ソーシャルスキルズトレーニングの効果も見られました。結果として少年は父親に過剰に依存することになります。アスペルガー症候群の1つの症状に、特定の人への愛着があります。アスペルガータイプの発達障害を持つ人を理解出来る人は少ないので、理解出来る人に会えると、その人ばかりに依存してしまうのです。その父親を失ったことでPTSDを負い、社会適応からは遠のいてしまっていたのです。

9. 11 テロ事件の日に、父親から留守番電話にメッセージが残されていました。それを聞かなかったことには、父親の死と向き合うことが恐れたことを示しています。もし聞いていたとすれば、父親の死は少年にとって乗り越えられない不幸となり、鍵穴を探す探検にも出なかったことでしょう。これは、少年の祖母から部屋を借りている男性が、大き過ぎる不幸を乗り越えられず、失語症として発現させていることから読みとれます。一旦不幸と向き合うことから逃げることも、自分を守るためには大切です。不幸と向き合うには時間が必要です。自分なりのペースで不幸と向き合わなければ、心は壊れてしまいます。

父親の遺した鍵を発見し、それには意味があると信じ、鍵穴を見付ける探検に出かけます。父親との探検を延長することで、父親の死と向き合うことを先延ばしにしています。鍵を探す過程で、周囲の人々もそれぞれの不幸に遭って傷ついていることを知り、少年を支えてくれる存在に気付き、父親の死と向き合えるようになります。少年は、自分の周囲の大切な人々の存在に自身で気付き、自身で考え方を変えたのです。

不幸により傷付いて苦しんでいる周囲の人に対して、助言したがる人間がいます。

『なぜ私だけが苦しむのか？—現代のヨブ記』の著者である H. S. クシュナーは、人の不幸に対して与えられる理由付けをいくつかに分類しています。

「因果応報です。あなたのおごり高ぶった性格を正しくするために神が試練をお与えになったのです。この不幸はあなたが正しくなるチャンスです」

「今は苦しくても、いつかは幸せになれます」

H. S. クシュナーは、それぞれの理由付けの問題点を指摘しています。

1つ目の理由付けは、苦しみをなくそうとするあまり、苦しむことそのものを否定していて、その人は余計苦しくなるだけです。結果的に苦しみがプラスになる人もいますが、それは全ての人の苦しみがプラスになることを意味している訳ではありません。個別的事象と一般的事象を混同するべきではありません。

2つ目の理由付けは、人生が終わりに近付いた人にとっては何の慰めにもなりません。やり直すことが出来る不幸ならまだしも、最愛の子を失うなど、将来の幸せを考えられないほどの不幸もあります。

不幸により傷付いている人に、「不幸とこう向き合え」と助言することは、ただでさえ苦しんでいる人の傷を深めることにしかならないのです。それが妥当な助言であったとしても、その人の助けにはなりません。不幸は後になって考えてみれば、結果として人生にとってプラスになっていることもあります。しかしそれは後になってから言えることであって、そう考えることをその人の不幸の最中に他人が助言するべきではありません。不幸に遭うことに理由はありません。理由付けは、不幸に遭った人自身が行わなくてはならないのです。過去の不幸に自身で理由付けを行い、未来へと方向を転換しなくてはなりません。

この映画で 9.11 テロ事件は、あくまで 1つの不幸として描かれています。観客は、自身の不幸に当てはめて作品を鑑賞することが出来ます。不幸というものは数量的に計測不能です。自分と他人のどちらが不幸かを客観的に比較することは出来ませんし、比較するべきではありません。不幸というものは、本人がどれだけ傷付いているかが重要で、本人が傷付いているのであれば、それは本人にとって解決すべき問題なのです。

旧約聖書の『ヨブ記』では、信心深いヨブに様々な不幸が襲いかかります。「なぜ私は苦しむのか？」と問いかけるヨブに対し、三人の友人はそれぞれの理由付けを述べますが、ヨブの苦しみは深まるばかりでした。ヨブの問いかけは、質問ではなく、悲痛の叫びでした。ヨブは友人たちにただ「ヨブの不幸は公平性を欠くものだ」とだけ言って欲しかったのです。ヨブが求めたものは、ヨブを思いやり、ヨブが怒ることを許してくれる友人たちでした。

不幸により傷付いている人に対して、周囲の人々が出来ることは、共に苦しみ、思いやり、見守ることだけなのです。不幸と向き合うのには時間が必要なのですから、周囲の人々は辛抱強く待たなくてはなりません。この映画は、そのように 1 人 1 人の不幸に寄り添う映画です。

観客の中には、将来不幸により傷付く人もいます。

あなたと苦しみ方に違いはあっても、あなたの周囲の人々も、それぞれの不幸により苦しんでいます。

もし将来あなたが苦しむ時が来たとしても、あなたの周囲には、あなたを支えてくれる人がいるかもしれません。

これも私が解釈した 1 つのメッセージです。不幸により苦しんでいる最中の人に不幸との向き合い方を命令するべきではありませんが、不幸によって苦しむ前に、不幸には自分なりの理由付けを行うと向き合えるかもしれないというメッセージを贈るのであれば良いと私は考えます。

将来不幸により傷付くかもしれない人々へ向けた未来志向の映画でもあると私は解釈しました。

2012 年 5 月 8 日

『ヒューゴの不思議な発明』(2012)

郡山ですこんにちは。

GW 初日にウイルス性腸炎を患って以来、苦しみ続けた 1 週間だったので、GW について語ることはありません。

ここ 5 日はポカリと薬くらいしか飲んでいません。

予期せぬ体調不良があっても、幹部としての職務を全うできるように、常にブログの記事のストックを用意しているので、投下します。

という訳で、書くことが無いので映画の話でも。

ネタバレを含んでいます。

『ヒューゴの不思議な発明』(2012)

私は気に入りました。

映画の発明者であるリュミエール兄弟の『シオタ駅への列車の到着』、世界初の職業映画監督であるジョルジュ・メリエスの『月世界旅行』、ドイツ表現主義後の傑作であるフリッツ・ラング監督の『メトロポリス』などの知識を持っている方にとっては、胸が熱くなる映画だと私は考えます。

映画を初めて観る人にとっては、『シオタ駅への列車の到着』の列車が自分に向かって走ってくる映像は衝撃的でした。

『ヒューゴの不思議な発明』でマーティン・スコセッシが試みたことは、初めて映画を観た人々の感動の 3D による再現です。

やがて、ただ映像を観せるだけでは観客に飽きられるようになります。

ジョルジュ・メリエスは、手品や演劇のテクニックを応用して映画を制作したので、特殊効果の創始者とされています。

それまでの映画は 1 つのショットのみで構成されていたため、ショットを並べることで幻想的なストーリーを作り出した『月世界旅行』は、当時としては画期的な作品でした。

そのため『月世界旅行』は、映画史を語る上では欠かせない作品となっています。

『月世界旅行』には、現実を離れ、夢を与える映画の原点があります。

第一次世界大戦で残酷な現実を思い知った人々は、映画を観ても心の傷を癒すことが出来

ず、ジョルジュ・メリエスの作品から離れていきます。

第一次世界大戦から 10 年経過し、人々の暮らしは落ち着き始めますが、1929 年に世界恐慌に襲われます。

経済的な不安の絶えない現実から一時的に逃避するために、映画の人気の高まっていきます。

これは現代とも重なる状況です。

マーティン・スコセッシが『ヒューゴの不思議な発明』で試みたことは、世界恐慌の時代において、人々を楽しませ、現実を忘れさせ、現実に戻る元気を与える役割を持っていた映画の復活なのです。

世界初の SF 映画である『月世界旅行』が、映画における SF の可能性を示し、SF 映画黎明期の傑作である『メトロポリス』が、映画における SF の可能性を飛躍的に向上させました。

フリッツ・ラング監督の『メトロポリス』は、映画史上最も美しいロボットであるアンドロイド・マリアが登場する映画として有名で、『スターウォーズ』シリーズの C-3PO のデザインに影響を与えました。

『ヒューゴの不思議な発明』の機械人形の造形はアンドロイド・マリアに影響を受けています。『ヒューゴの不思議な発明』の機械人形の登場のカットは『メトロポリス』そのものです。『ヒューゴの不思議な発明』の機械人形を正面に捉えたまま回想に入るシーンは、『メトロポリス』のアンドロイドが、人間であるマリアの姿を写されるシーンのオマージュです。

機械人形や、公安官の義足や、ハロルド・ロイドの『ロイドの要心無用』へのオマージュである主人公が時計にぶら下がるシーンがあることから分かるように、『ヒューゴの不思議な発明』は機械が全面に押し出されています。

時計の歯車が、夜の街の道路の光の流れにオーバーラップする美しいシーンがあります。

『ヒューゴの不思議な発明』には、機械にいらぬ部品が無いように、全ての人間には存在価値があるという、人間賛歌の前向きなメッセージが籠められています。

これは『ヒューゴの不思議な発明』が扱っている題材である映画制作にも言えることです。監督や役者のような目立つ人々ばかりでなく、多くの裏方に支えられて一本の映画は成り立っているのです。

この誰もが共感出来る普遍的なテーマに、映画創成期への愛が籠められていて、映画ファンから絶賛されることは必然だと私は考えます。

映画史に興味が無い方からは、ヒューゴは何も発明していないし、さも壮大な謎を解くかのように見せかける予告編詐欺で、退屈な映画だという意見も出ているようです。ですが、3Dは綺麗でしたし、映画史の知識も少々持っていたので、私は楽しめました。

『タクシードライバー』や『ディパーテッド』のような映画での暴力描写のイメージが強いマーティン・スコセッシが、このような夢を与える映画を作ったことは意外でした。マーティン・スコセッシは1つの新境地を開拓したと私は考えます。

2012 年 6 月 5 日

『アンダルシアの犬』(1928)

フランスのシュルレアリスム映画の代表的作品です。

シュルレアリスム映画は、二つの思想的な流れの中で作られています。その思想とは、既存の価値観を壊すということと、無意識を映像で表現するということです。

19世紀は『資本論』によりマルクス主義が台頭した時代でした。マルクス主義は資本主義に労働者団結革命を起こし、既存の価値観を壊していきました。マルクスは世界の変革により人間の精神の全的な解放を実現しようとしてしました。シュルレアリスムはこの思想に共感し、映像によって人間の精神の全的な解放を実現しようとしたのです。

精神科医であるフロイトが無意識の概念を提唱しました。意識にレベルがあることはそれまで知られていませんでした。これは当時としては画期的な考え方で、無意識を発見したと言えます。シュルレアリスムはフロイトの精神分析を取り込み、無意識を映像で表現しようとしてしました。

『アンダルシアの犬』はサルバドール・ダリが脚本を書いています。サルバドール・ダリは画家として有名で、『記憶の固執(柔らかな時計)』をご覧になった方も多いと思います。

『アンダルシアの犬』には登場人物はいますが物語はありません。

時間と空間、原因と結果の因果関係が崩され、まさに夢を見ているような感覚に陥ります。私達には理解出来ない独自の法則を持った、現実ではない世界が描かれているように思われます。

冒頭に、ルイス・ブニュエルが女性の片目を見開かせ、眼球を剃刀で切り裂くシーンがあります。人間は目を見開いている時に真実から遠のき、目を閉じている時に真実へと近づきます。シュルレアリスムにおいて夢とは神です。そして眼球とは多くの可能性を妨げるものです。

この映像も眼球があるからこそ観ることが出来ます。

目に見える映像をそのまま受け取るのではなく、自分の気に入った映像を組み合わせることで、自分だけの『アンダルシアの犬』が完成するというを示しています。

同じモチーフが繰り返し登場しており、解釈出来なくはないのですが、ネタバレになるのでこれくらいで自粛します。

幻想的な映像の奔流に身を任せてみて下さい。

上映時間が16分なので、他のDVDを借りるついでに手にとって気軽に観ることが出来ます。

『アンダルシアの犬』は世に出るのが早過ぎましたが、シュルレアリスムの精神はデヴィッド・リンチ監督作品にも受け継がれています。

芸術映画の原点を是非体感してみてください！

2012 年 7 月 5 日

『戦火の馬』(2012)

郡山です！こんにちは！

遅くなりましたが、名画座と合評会に来て下さった皆様、本当にありがとうございました
m(_ _)m

名画座のたびに長距離走してますね（笑）

何で毎回問題が起こるんでしょう……。

私呪われてるんですかね（笑）

少し前に、次のシネミサに載せる『ミッドナイト・イン・パリ』の考察を完成させたんですよ！

合評会に来て下さった皆様は聞いてると思いますけど、合評会の各班のまとめでそのださんの意見に対して私が補強した内容を考察に載せようと思います（笑）

『ミッドナイト・イン・パリ』でのタイムスリップは主人公の空想の産物であるという解釈は、撮影手法上の特徴から導き出してはいたんですけど、マジックのタネを明かす無粋な行為なので言わないでおこうと思って、私の合評会のまとめでも言わなかったんですよ。表象の専門家であるサカキ先生や、40 本くらいのレビューを読み漁るのが仕事である私ならともかく、まさかタイムスリップは主人公の夢ではないかという解釈に直観でたどりつく方がいらっしゃるとは思いませんでした（笑）

撮影手法上の特徴が直感で理解出来ているということでしょうか（笑）

脚注に長々と書いたので、夢を壊されたくない方は読まないように今から言っておきます（笑）

あくまで1つの解釈ですし、別に私の解釈を正しいと思う必要は無いです。

それでも、キレイなベールの向こうの真実に、少しでも近付いてみたい方って、私だけではないですよ（笑）

書くことが無いので映画の話でも。

『戦火の馬』(2012)

馬の演技が絶賛されている作品です。多くの方が感動出来る、古典的かつ王道的な作品です。

持ち主が変わっていく馬の視点から戦争を描くことで、敵も味方も、誰かの息子であり、家族を持つ、1人の人間として描いています。

本来ならば平和に暮らせたはずの馬が人間のエゴに巻き込まれ、傷付けられる様相を描く

ことで、戦争の残酷さを際立たせています。

『戦火の馬』で象徴的に用いられる小道具にアルバートの父親の大隊旗があります。

母親がアルバートに、父親のボーア戦争での大隊旗を渡します。

アルバートの父親はアフリカで戦友を救い、勲章を貰っていました。

その旗は、母親の所に父親を帰らせてくれた幸運の旗でした。

アルバートは、ジョーイの鞍にその旗を結んでいます。

その旗には、父親の幸運にあやかっ、生きてジョーイが帰ることを願ったお守りとしての意味がありました。

その旗は、ジョーイの命を守るものであり、アルバートとジョーイの間に結ばれた絆なのです。

その旗が、アルバートとジョーイの再会の奇跡にも作用することになります。

その旗は、荷物を引っ張るために着ける馬具と共に、ジョーイが農耕馬として育てられたことも象徴しています。

トップゾーンが馬具を着けられることを躊躇している際に、ジョーイが自分から首を馬具にくぐらせ、トップゾーンを安心させるシーンがあります。

自分たちが荷馬として役に立つことを示し、処分されることを免れます。

戦争の形態が騎馬戦から重火器による戦争へと変化していき、早く走るために育てられたトップゾーンは存在価値をなくしていくことになります。

その旗は、役に立たなくなったトップゾーンが処分されるのをジョーイが庇い、助ける能力を発揮出来ることを示すものでもありました。

イギリスから遠く離れたアフリカで、父が戦友を救ったことと重なり合うエピソードです。

その旗は、人間と馬との友情と、馬同士の友情との両方を象徴するものでした。

無人地帯でジョーイは有刺鉄線に絡まって動けなくなるシーンがあります。

1人の勇敢なイギリス兵が白旗を挙げながらジョーイのもとへ赴くと、そこにはドイツ兵がいました。

「もっと有刺鉄線カッターをくれ！」とドイツ兵が叫ぶと、ドイツ軍の塹壕の中から何本ものカッターが投げられます。

イギリス兵とドイツ兵とが協力してジョーイを有刺鉄線から解放することになります。

ジョーイを媒介として、敵同士の人間の間で他愛のない世間話が交わされます。

敵の兵士も味方の兵士も、上からの命令に従っているだけの一人の人間であることを示しています。

これはどのような映画を制作する際にもユーモアを忘れないスピルバーグらしいシーンです。

地上戦の時代であった第一次世界大戦においても、このようなやりとりはファンタジーですが、遠隔操作で攻撃しあう現在の戦争においてはファンタジーでも成立しないやりとりです。

スピルバーグが現実の戦争を描く映画を制作する際に、第二次世界大戦以前の時代にさかのぼろうとする理由の一つは、このようなユーモアのあるシーンを作れるからです。

『戦火の馬』の塹壕戦のシーンは『西部戦線異常なし』のオマージュです。『プライベート・ライアン』のように、戦闘シーンはリアルに描かれています。

しかし、ジョーイとトップゾーンに乗って脱走しようとした二人の兄弟が処刑される瞬間が風車の羽根で遮られるシーンや、アルバートの親友が塹壕で毒ガスにより死ぬ際に白い煙で遮られるシーンがあります。

直接的に死を描かないように工夫しています。『戦火の馬』は、戦争の残酷な現実を描いてはいますが、反戦はメインテーマではありません。

スピルバーグ自身は、『戦火の馬』は、「戦争映画ではなく、ラブストーリーだ」と語っています。

『戦火の馬』のラストの夕日に佇むジョーイのシーンは『風と共に去りぬ』のオマージュです。

『風と共に去りぬ』で、夕日に佇むスカーレットが誓ったことは、タラの地を愛し、その地で生きていくことでした。

戦争という極限の状況においても、『戦火の馬』のような奇跡が起こるかもしれないのです。どのような状況でも愛する者との絆を持ち続け、諦めずに、希望を持って、強く、生きて下さい。

これが『戦火の馬』に籠められたメッセージです。

『ものすごくうるさくて、ありえないほど近い』や『ヒューゴの不思議な発明』と同様に、『戦火の馬』も、愛する者の喪失を描いた作品で、背景に戦争があります。

『戦火の馬』は、未来に起きる奇跡の可能性をファンタジーで示し、希望を持って強く生きる姿を描いた作品なのです。

2012 年 8 月 6 日

『戦艦ポチョムキン』(1925)

郡山ですこんにちは。

テスト打ち上げは盛り上がりましたね。幹事の皆様は本当にお疲れ様で御座いました。もう年のせいか、夜通しカラオケはしんどかったようで、今は何をやる気力も湧きません……。

『おおかみこどもの雨と雪』も観てきたんですよ。

1つの物語として見れば、色々と批判せざるを得ない点があるのは分かります。

ただ、私は人生によほど疲れていたせいか、最初からもの凄い感情移入して感動してしまったんですよ。細田守の作風の優しいタッチが心に響いたのかもしれない。

そして、批判して凡作で片付けるには、素晴らしいシーンが多すぎるんです。1つの映画に1つ素晴らしいシーンがあれば良い方なのに、5つも6つもあるのです。

細田守は表現手法に関しては天才ですね。

解説したいですけど、ネタバレになってしまいます。

次に何が起こるか分からない波乱万丈の子育て奮闘記が『おおかみこどもの雨と雪』の見どころです。

批判したくないですし、記事にするのはやめておきました。

『ダークナイト ライジング』も観てきたんですよ。

ラストシーンの解釈が人によって分かれると思って、考察しようかと思いましたが、ネタバレ記事を幹部ブログに載せるのも躊躇われるので、記事にするのはやめておきました。バットマンを精神面で苦しめたジョーカーを超える悪役の造形は無理なので、肉体面でバットマンを苦しめる悪役の造形を試みたという所でしょう。

結果として、ヒーローへのアンチテーゼが全面に押し出されたダークナイトとは異なり、ビギンズのようなアクション寄りの映画となったという所でしょうか。

流石クリストファー・ノーランと言うべきか、一般的な映画と比較すると面白い映画です。ただ、これも物語としては批判すべき点もありそうです。

気に入ったシーンもいくつかありましたし、あまり批判したくはないです。

書くことが無いので名画座で取り上げられなかった映画の話でも。

『戦艦ポチョムキン』(1925)

ソヴィエト・モンタージュ映画の中でも、最も洗練されたモンタージュ映画だとされています。

モンタージュとは、一般的には編集を中心にして、2つのものの衝突によって映像に意味を

持たせようとする考え方のことです。

モンタージュの編集の技法を用いた有名なシーンに、立ちあがるライオンの像のシーンがあります。門の飾りの 3 体のライオンが映されます。最初にしゃがんだライオンの像を映し、最後に立ちあがったライオンの像を映します。この一連のショットを並べることで、ふせていた戦う心が立ちあがったことを示しています。

セルゲイ・エイゼンシュテインが確立したモンタージュの編集の手法は、アンドレイ・タルコフスキーによって批判されることとなります。

モンタージュはフィルムに定着された時間をつなぐ行為であり、決して中心的な創造行為にはならないとタルコフスキーは主張しました。映画とはイメージのフィルムへの定着であり、イメージの持つ力こそが観客の心を動かすことが出来るとし、長回しを用いた映画を制作していきます。

(アンドレイ・タルコフスキー監督の『ノスタルジア』と『サクリファイス』は、昨年度の名画座の中で紹介されていきましたので、それをご覧になった方はよく分かると思います。)『戦艦ポチョムキン』の持つ革新性は、後にセルゲイ・パラジャーノフ監督の『火の馬』と比較されることとなります。

(『火の馬』は昨年度の名画座の中で紹介されていきました。観ていたのは私だけでしたが…。)

しかし『火の馬』は、社会主義リアリズムには適合しない映画であり、批判の対象となります。

ハリウッドの物語は、主人公の心理とアクションの連鎖によって物語が進行する、すなわち物語が個人を追って進行しますが、モンタージュ映画では物語は集団を追って進行します。

登場人物は行動しますが、あくまでも様々な階級のメンバーとして、所属する階級の感情を代表して表現しています。

モンタージュの理論は、編集だけに限られないとセルゲイ・エイゼンシュテインは主張しました。モンタージュは主題にも適用され、対立する 2 つの要素から新しいコンセプトを観客の中に生じさせようとしていました。

有名なシーンとして、オデッサの階段があります。

背中から市民を撃つ兵隊や、階段を落ちて行く乳母車に載った赤ちゃんを描くことで、暴力と無力を対比しています。

セルゲイ・エイゼンシュテインは映画を抽象的な観念を伝達するものとして捉えました。

『戦艦ポチョムキン』はマルクスの『資本論』の映画化を試みたものなのです。

テーマは共産主義革命を促すプロパガンダですが、洗練された編集、役者たちの凄まじい演技により、躍動感溢れる映画となっています。

時代の熱狂を感じさせる傑作です。

2012 年 8 月 30 日

『無防備都市』(1945)

郡山ですこんにちは。

久方振りで御座います。皆さん夏休みをいかがお過ごしでしょうか。

私は政策立案コンテストの事前勉強会で東京に行ってきたんですよ。

早稲田、慶応、一橋、東大などの学生の方々と教育の今後について軽く議論してきました。コンテスト本番はまだ先ですし、教育の今後について語られても退屈でしょうから、ここで書くのは自粛します。

今のうちにやっておこうと思って、10 月名画座企画のデヴィッド・リンチ特集のレジュメを完成させたんですよ。

28442 字という、かつてない字数となってしまいました (笑)

皆様方ならきっと読んで下さると信じております m(_ _)m

『イレイザーヘッド』とか『ツイン・ピークス』とか『ロスト・ハイウェイ』とか『マルホランド・ドライブ』とか『インランド・エンパイア』とか、ストーリーを解説しないとまず理解できない作品に絞って、論文一本書けそうなくらいの内容を要点をかいつまんだんですよけど、これ以上削れませんでした (笑)

『エレファント・マン』はデヴィッド・リンチの制作に対するこだわりが良く出ている作品なのでちゃんと解説したいですし、『ブルーベルベット』も密度の濃い作品ですから、メッセージを解釈しようと思えば長くなります。

『ストレイト・ストーリー』とか『ワイルド・アット・ハート』とかは、私が解説しなくても普通に良い作品です (笑)

近況で書くことがこれくらいしかなくてごめんなさい (笑)

荒んだ生活を送っている訳です (笑)

『アベンジャーズ』も観てきたんですよ。

ストーリーは、正義の味方が悪を倒す話なので、ネットで『マイティ・ソー』のあらすじを読むくらいでも良いと思いますけど、『インクレディブル・ハルク』は『アベンジャーズ』鑑賞前に観ておいて欲しいです。

狂戦士の苦悩を知ってから観ると、『アベンジャーズ』の中のハルクがいかに格好良いかが分かります。

ロバート・ダウニー・Jr とマーク・ラファロの演技が絶賛されています。

関連作品を観ていなくても楽しめるように、ストーリーよりもヒーローの心理面の描写が

重視されているので、アイアンマンとハルクの格好良さを観る映画だと思って頂ければ良いと思います。

娯楽として面白い映画なので、観ておいた方が良いと思います。

ヒーロー皆に見せ場があり、登場人物の混乱も感じさせない良い映画なのですが、記事にするには過去の作品を辿る必要があって大変なので、記事にはできませんでした。

『プロメテウス』も観てきたんですよ。

序盤、中盤の映像は綺麗ですが、リドリー・スコット監督『エイリアン』第一作に比べれば、映画としての完成度は劣ります。

リドリー・スコットの『エイリアン』だと思って観に行くと期待外れでしょう。

しかし、駄作であるとして批判するのはまだ早いと思います。

『プロメテウス』はメッセージ性を重視した映画なのだと推測できます。

謎の解決が全て次回作に持ち込まれたので、この作品では何も明らかになっておらず、物語を厳密に解釈することはできません。

物語を推測することはできますが、過去の『エイリアン』作品群を辿る必要がありますし、進化論から説明しないといけなくなりそうですし、記事にはできませんでした。

次回作で評価が決まります。

書くことが無くなったので名画座で取り上げられなかった映画の話でも。

リアリズムの特徴はラストに表れるのでネタバレを含んでいます。

『無防備都市』(1945)

イタリア・ネオ・リアリズムの時代の幕開けとなった作品です。

イタリアには、ヨーロッパ最大規模の映画スタジオであるチネチッタがありました。しかしそれは戦争で失われてしまい、映画の題材はスタジオの外に求めるしかありませんでした。結果として、戦後直後の荒廃した現実を客観的に描き出すネオ・リアリズムが生まれたのです。

人材的、資金的不足はロベルト・ロッセリーニの手腕により、逆に好結果をもたらしました。

プロの俳優が5人ほどしかいなかったため、ほとんどの出演者は素人でしたが、それがかえってドキュメンタリー映画のような雰囲気を醸し出すことになりました。

フィルムが限られた量しかなかったため、それぞれのカットは3カット以内に収めることになり、それがカット数の少ない長まわしによるリアルな映像を生み出すことになりました。

ネオ・リアリズムの物語形式の特徴は偶然性です。

原因と結果の連鎖で物語が進行していくハリウッダ的物語形式とは異なります。

現実は一人の人物の行動では変わらないという展開上のリアリズムです。

演劇は等身大で事物を表現する芸術体系です。それ対して映画は、クローズアップ、ロングショットにより事物を等身大より大きくも小さくも変化させて表現出来る芸術体系です。演劇には偶然性はなく、映画には偶然性が生まれるのです。偶然性が最大限に活きるのは、同時代の現在進行形の出来事を描き出すことではないかという考えがネオ・リアリズムの出発点です。

記録を記憶に置き換えようとする試みがネオ・リアリズムです。単に記録するだけではなく、演出することで、観客の記憶に残るように記録を進化させたのです。進化した記録の形態が観客の感情を揺さぶるのです。

ドン・ピエトロ神父、マンフレーディ、ピーナの3人の人間像が象徴的に描かれています。

3人ともゲシュタポに殺害されますが、一人は聖職者で、一人はレジスタンスで、一人は結婚を控えた普通の女性です。

全く立場の違う3人の死が描かれています。ピーナは、ドイツ軍のトラックで連行されていく婚約者を追って、ドイツ兵に撃たれ、もんどりうって死に、マンフレーディは、爪を剥がされ、バーナーで体を焼かれ、電流を体に流され、拷問の末死に、ドン・ピエトロ神父は、至近距離からブタを屠殺するかのように処刑されます。

二人の殉教者と、愛を求めて路上で射殺される女性の、勇敢な生き方が描かれています。

パルチザンのために偽の身分証明書を作り、パルチザンの活動を支援していたドン・パツパガッロ神父の話に、レジスタンスに荷担したためにドイツ軍に処刑されたドン・モローニの話が組み合わされた物語です。ピーナにもモデルがいます。ドイツ軍の家宅捜索に夫が巻き込まれ、それに抵抗して射殺されたテレーサ・グッラーチェという妊婦がいました。戦時中にはこのような凄惨な事件がいくつもあったのでしょうか。実在のモデルを使用することで映画にリアリティを持たせています。

ネオ・リアリズムには、幸せな終わりを付けられないという特徴もあります。主人公の目的の達成と幸せが明確に描かれるハリウッダ的物語形式の閉じた結末に対して、開かれた結末であると言えます。観客は映画の世界のその後が想像出来ないのです。

ベルクマンは、マンフレーディに自白させるために、部下に激しい拷問を命じます。ベルクマンはマンフレーディが自白すると確信していました。「もしマンフレーディが喋らなかったらイタリア人もドイツ人と対等ということになる。そして種族としての優劣の差、人間としての能力の差がないということになる。そうすればこの戦争の意味も失われる。」と言うベルクマンに対して別の将校は酒に酔って、「人間の心までは支配できない。われわれ

のしていることは人殺しだ！」と言います。

マンフレディは自白することなく死にます。マンフレディはイタリア人とドイツ人が対等で、いかなる暴力も人間の心までは支配出来ないことを示したのです。

『無防備都市』は、処刑されるドン・ピエトロ神父を見た少年たちが静かにその場を去るシーンで幕を閉じます。少年たちが勇敢な殉教者の後を継ぐであろうということが暗示されています。

オットー・プレミンジャーは、「映画の歴史は二分される。『無防備都市』以前と以後だ」と語りました。

ジャン＝リュック・ゴダールは、かつて偉大な映画は、国民もしくはその民族が自分たちの姿を見たいと思っている国に出現したと述べています。多くの国で、レジスタンスの闘士と占領軍の兵士との戦いを描く映画が制作されました。しかし国民全体が持つその民族のレジスタンスの概念を表現したのは『無防備都市』だけです。イタリアは自国の国土の上で戦争を行っていません。弱い国を叩くだけ叩いて、最初はドイツについて、ドイツの戦況が悪くなると、連合軍に加担しました。イタリアは十年前からの自分たちの行動を恥じ、自分たちの本当の姿を見たいと考えました。イタリアは、良質なイタリア映画の中に自分の本当の姿を示す事になったとジャン＝リュック・ゴダールは述べています。

衝撃的なストーリーから、その時代の作り手の情熱が感じられます。ゴダールに唯一のレジスタンス映画とまで言わしめた傑作を是非体感してみてください。

2012 年 9 月 26 日

『道』(1954)

郡山です。こんにちは。

合宿、超楽しかったですよね。

おのみち映画資料館で小津安二郎と志賀直哉のツーショットを見られたことが最大の収穫でした。

日本映画四大巨匠の一角と、近代日本文学の最高峰と名高い『暗夜行路』の作者が並んで歩く様相は圧巻でしたね。

こんなにも素晴らしい合宿を演出して下さったそのだ様を崇め、敬い、奉りましょう。

どうすればあんなに凜として、かつ、皆から慕われるリーダーシップを持ち得るのでしょうか。

見習わせて頂きたいものです。

合宿の思い出は共有してしまっていて書くことが無いので、名画座で取り上げられなかった映画の話でも。

ラストシーンの解釈が重要なのでネタバレを含んでいます。

デヴィッド・リンチが影響を受けた監督として、アルフレッド・ヒッチコック、スタンリー・キューブリック、フェデリコ・フェリーニが挙げられます。

今年度の名画座をデヴィッド・リンチに収束させるならば、フェデリコ・フェリーニを取り上げることは避けるべきではありませんでしたが、時間の都合上取り上げることができませんでした。

フェデリコ・フェリーニ監督の『青春群像』(1953)と、『甘い生活』(1959)は、昨年度の名画座の中で紹介されていました。それらをご覧になった方々は、フェデリコ・フェリーニ監督作品の雰囲気は良く分かると思います。

『道』(1954)

『道』は、自他共に認めるフェデリコ・フェリーニの代表作の1つです。

フェデリコ・フェリーニは、ロベルト・ロッセリーニ監督の『無防備都市』のシナリオに協力しており、イタリア・ネオ・リアリズムから出発しました。しかし、そのネオ・リアリズム的な作風に変化が現れるようになります。

フェデリコ・フェリーニ、ジョヴァンニ・グラッツィーニ著『フェリーニ、映画を語る』

から引用します。

『道』は非常に根深い対立、不幸、郷愁、時の流れ去る予感などを語った映画で、1 つ 1 つが社会問題や政治的責務に還元できるわけではなかった。だからネオリアリズムの熱狂に支配されていた時代に、退廃的で、反動的な否定すべき映画とされてしまった」

『道』は、フェデリコ・フェリーニの最後のネオ・リアリズム作品と呼ばれてはいますが、このフェデリコ・フェリーニの言葉に端的に表れているように、イタリア・ネオ・リアリズムの大きな流れからは切り離された作品です。

『道』には、ヨーロッパのキリスト色が至る所に見られます。

主人公の名前のザンパノとは、イタリア語で悪の意味です。悪漢の象徴です。

ヒロインの名前のジェルソミーナとは、イタリア語でジャスミンの意味です。花の名前です。純粹さの象徴です。

フェデリコ・フェリーニは、この二人の名前に、「神に近き者」(女性)と「神から遠き者」(男性)という人格イメージを造形しています。

本来は出会はずではなかった 2 人が、一方はパンを求め、一方は大道芸のサポーターを求め、それらをトレードすることによって交わり、どこまでも続く細々とした白い道をオート三輪に乗って、大道芸人の旅を続けるのです。

知的障害を持つヒロインは、涙を見せる母親から、パンのために、大道芸のサポーターの問題を抱える主人公に対して人身御供に出されますが、芸でも食事でも主人公を満足させられないヒロインは、主人公のビジネスの強力なサポーターにはなり得ず、その度に主人公に折檻される日常が繰り返されていきます。

主人公は、偶然宿泊した修道院から盗みを図る小悪党です。しかしそれ以上に、自分の思いを相手に丁寧に伝えられない不器用な男です。

主人公の粗暴さと勝手さに耐え切れず、「もう、私帰る」と言い放って縁を切ったヒロインは、偶然道化師に出会います。

道化師の持つ人格イメージは、神の意志を伝えるメッセンジャーです。

道化師の 2 つの重要な助言によって、ヒロインは再び、主人公との大道芸人の世界に戻っていきます。

危険な綱渡り芸人であるが故に、自分の近未来の死を予見していた道化師は、2 つの印象的な言葉をヒロインに投げかけます。

「多分、彼は君が好きなんだ。彼は犬と同じさ。話したくても、吠えるしか能がない。哀れな男さ。でも、奴には君がついている」

「どんなものでも何か役に立っている。この石でも、何かの役に立っているんだ。神様だけが知っている。人がいつ生まれ、いつ死ぬか。この石もきっと、何かの役に立っている。無用のものなどない。君だってそうだ。そんな頭でも……」

ヒロインは、この二つの言葉によって、主人公は、単に自分の思いを相手に丁寧に伝えられない不器用な男だと信じたかったのです。

主人公は、何の役にも立たないヒロインに対して、安らぎの感情をも抱いていましたが、そんな感情を自覚することもできない主人公は、当然、それを女に伝えることができないだけなのです。

昔からの因縁もあって、主人公は道化師を勢い余って殺害してしまいます。

事件を目の当たりにしたヒロインは、神の意志を伝えるメッセンジャーを象徴させる道化師を失い、ショックのあまり情緒不安定となり、泣き過ごす日々を過ごします。

これによりヒロインは、主人公との心理的距離が開いてしまい、神との距離も開いてしまいました。

それは、安らぎの対象として求められていたヒロインの人格イメージの根源を打ち砕いてしまいました。

ヒロインの本来的な価値を実感できなくなった主人公は、ヒロインを置き去りにします。

数年後、主人公は、ヒロインが、浜辺で、道化師の死を嘆き続けながら亡くなったことを知ります。

浜辺は、神の言葉を受容する聖なる場所の象徴です。

孤独を極めた主人公は、聖なる場所に身を横たえたヒロインの嘆きを思いつつ号泣します。これはヌミノースです。

ヌミノースとは、聖なるものと交わる宗教体験により原始的な感情が沸き立つ非合理的体験のことです。

孤独を極めた男が神との距離を最近接させる奇跡を描いた寓話的で美しい映像です。

しかし、そこまでに二人の人間の生命を犠牲にしています。

これから、主人公の人生がどう変わるかは分かりません。

フェデリコ・フェリーニは、このラストシーンだけはリアリズム的に冷徹に描いています。

「神から遠き者」と「神に近い者」の距離がどれほど開いていても、私たちはこの距離の中で、人生を歩んでいかななくてはならないことを示しています。

『道』で描かれるものは、人間賛歌のヒューマニズムです。

人間の生きていく意志が描かれた作品です。

フェデリコ・フェリーニのヒューマニズムは、「どんなものでも何か役に立っている。この石でも、何かの役に立っているんだ」という言葉に端的に表れています。

2012 年 10 月 25 日

『メトロポリス』(1927)

郡山ですこんにちは。

名画座と合評会に来て下さった皆様、本当にありがとうございました！

『アイアン・スカイ』にしろデヴィッド・リンチにしろ、100 人に 1 人くらいが絶賛するタイプの映画なので、興味が持てなかった皆様に対しては申し訳なかったです(汗)

『アイアン・スカイ』は、サカキ先生に言わせれば、「自らが B 級であることを自覚しながら B 級であることを貫いた映画」だそうです。

そりゃあ女子受け悪いですよ(笑)

アドルフ・ヒトラー著『我が闘争』の引用とか、口で言っても理解できないであろう部分は注釈に入れといたので、ナチスに興味のある方は、シネミサに載ったら読んでみて下さい。

デヴィッド・リンチを映研で流した人間がいたという事実が重要なのです(笑)

こういう映画もあるということは知っておいて欲しかったです。

来た方は喜んで下さっていましたし、デヴィッド・リンチの普及に貢献はできたのではないのでしょうか。

訳の分からない映画が苦手な方は、『エレファント・マン』と『ストレイト・ストーリー』を観ましょう。

芸術志向の強い監督は、たまに普通に感動できる作品を撮りたくなるようです。

私の役職としての仕事はこれで終わりです。質はともかく、1 年間走り切りました。

12 日で 14 本も強強打破飲むなんてテスト期間でもやりません(笑)

優秀な研究者とは、カフェインを文字に変換する機械ですよ(笑)

今もカフェインとプライドでギリギリ立っています。

たまった課題を消化しなければ……。

もう少し強強打破漬けの日々は続きます(汗)

辛いことはたくさんでしたが、来て下さる方がいたことは嬉しかったですし、やぶうち先輩と久々に飲んで気が晴れたので、これ以上は書きません。

書くことが無いので名画座で取り上げられなかった映画の話でも。

時期的に、「書くことが無いので映画の話でも。」シリーズ(私自身は、僭越ながら、昨年度のやぶうち先輩の「映画狂時代」を継承したつもりでやっています(真顔))の汎用性高

過ぎワロタ www 俺この表現気に入ったわ www)) としてはこれが最後の作品でしょう。映画史とは何か、作品に籠められた時を超えるメッセージとは何かを考えさせられる、フィナーレにふさわしい作品を取り上げたつもりです。

余談ですが、私の『ものすごくうるさくて、ありえないほど近い』の記事がなかなかのアクセス数を稼いでいるので、フィナーレとしてとっておいても良かったかもしれません。「『ものすごくうるさくて、ありえないほど近い』 アスペルガー」でググると私の記事が1番上に出ます。

「はてなブックマーク」がつけられているのが原因でしょうか？

アップする順番をもう少し考えておけば良かったと今では思います。

この先「映画狂時代」みたいなことをやろうとする人は、私みたいなグダグダな感じにならないように、考えておくと良いと思います。

メッセージ解釈を中心に考察したので、ネタバレを含んでいます。

『メトロポリス』(1927)

ドイツ表現主義後の傑作です。

世界初の SF 映画とされる『月世界旅行』が示した映画における SF の可能性を飛躍的に向上させた SF 映画黎明期の傑作とされています。

SF 小説はこの作品の前から既に存在していました。

しかし、動的な視覚としては初めて観るであろう未来社会の世界観を観客に提示しました。

『メトロポリス』で描かれている未来都市の街並み、ロボット、科学装置のデザイン、価値観のほとんどは当然のように最新の SF 映画でも描かれています。

「SF 映画の原点にして頂点」とされていますが、決して過言ではありません。

スケールの大きい世界観、皮肉が籠められた脚本の卓越性と分かり易さ、セットや小道具のデザインの芸術性と独創性の高さ、パントマイムを活かした団体演技によるモブ・シーンの迫力などは、現在の CG 頼りの血の通わない制作では出せない水準の高さです。芸術的な動きを見せる大群衆の糸乱れぬ運動は感動的です。

中央集権的な管理社会を描いた SF 映画です。

厳格な階層社会が、先端テクノロジーによって支えられています。

地下では身分の低い人たちが強制労働させられています。

中央の一本とりわけ高いビルには、1 番の権力者が住んでいます。
空間的高さと社会的地位が対応しています。

労働者たちに過酷に労働を強いる巨大機械を見た主人公は、機械がモロクと二重映しとなる幻覚を見ます。

人間を生贄にする破壊神であるモロクを思わせる機械の動力部は、犠牲者を何千人飲み込んでも、まだ足りないかのように新たな生け贄を求めます。

大爆発が起こり、死者が運び出されると、補充人員が何事もなかったかのように通常業務をこなしていきます。

労働者たちには夢も希望もなく、苦痛でしかない作業が続いていきます。

仕事ではなく、作業です。

当時のドイツは第一次大戦に敗北し、領土と誇りと日常生活の全てを失っていました。

神を信じる者、拝金主義者、コミュニストを想像させる人たちを描いています。

工場のシーンでの労働者たちのせかせかしたパントマイム的な動きは滑稽で、現実の下らなさや単調さを強調しています。

当事者以外が労働の様子を見ると滑稽にしか見えないという点は現在も変わりません。

工場の中でのみ通用するルールは全て常識ではなく、習慣に過ぎないのです。

制作当時のドイツを象徴するシーンがあります。

暴力に訴えるアンドロイドですが、それを作り出したのは体制側です。反乱を抑えるために差し向けた道具が自らに向かってくる状況は、ナチスを支援した財閥のメタファーです。アンドロイド・マリアが最後に火炙りにされる様子は、中世の魔女狩りを連想させると同時に、一度はドイツを再興した原動力であったはずのヒトラーを失脚させたことも連想させます。

現在も、人間の場当たりの本質は変わっていません。

1925 年の『戦艦ポチョムキン』と並んで、当時の資本主義と共産主義の対立を描いた作品です。

資本家と労働者という、20 世紀初期に暮らしていた人々にとっては基本的な対立構造がベースになっています。

1920 年代という資本主義と共産主義のせめぎ合いが作品に表れています。

一般的な SF では善玉的な立場の人間が勝利を収めてエンディングを迎えます。

『メトロポリス』では、資本家側と労働者側から救世主が現れ、両者を仲介して、真の平和を模索します。

『メトロポリス』のエンディングには愛情と希望が籠められており、観客が爽快な気分で映画館を出られるように配慮されています。

マリアとアンドロイドは、ヴィジュアルとしては 2 つの役は別物ですが、そこに描かれているものは、1 人の人間の二面性です。

扇動者（アンドロイド）と救世主（マリア）の差は僅かです。

支配者と労働者の立場は、革命が起こると、180 度逆転します。

身分制も脆弱な決まり事に過ぎないことが表現されています。

マリアが扇動者と救世主の分離であるように、主人公も支配者（支配的権力者フレーダーセン、つまり自分の将来の姿）と理想家（今の自分）の分離です。

二人の人間の心の中の葛藤を分かり易く表現した姿がアンドロイドであり、支配的権力者フレーダーセンです。

ラスト・シーンで頭と身体を繋ぐのはハート、つまり心であると宣言されます。

理性的な部分と感情的な部分のバランスを取って初めて、人間世界の繁栄が築かれるというメッセージが籠められています。

資本家（主人公）と労働者の精神的な支柱であるマリアの活躍によって、子供たち（未来）を救い出すシーンは、協調することの大切さを表しています。

過去を忘れてはなりません、それ以上に大切なことは、未来をどう生きるかです。

バベルの塔のエピソードやキリスト教の思想を説くマリアは保守的な人間です。

扇動するアンドロイドは革新的です。どちらが正しくて、どちらが間違っているかは分かりません。

多数派が常に正しいとは限らないのです。

全ての映画は歴史から逃れられません。

観客に残された過去の映画のイメージが、新しい映画を生み出すのです。

映画のほとんどの映像は、既に誰かが作り上げたものです。

クローズ・アップや繋ぎのない映画、ドラマの要素が皆無の商業映画、一切観客の感情を誘導しない無意志の映画は存在し得ません。

前衛映画にも、新しいものを作り出そうという意図が働いています。

ドキュメンタリー映画にも、誰かの視点が存在する以上、公平ではあり得ません。

映画は新しければ新しい程優れているという訳ではありません。

無数の映画が生み出され、観客の心に訴えかける力を持たない映画は、時の流れの中で淘汰されます。

昔の映画だから優れているのではなく、時の流れの中でも淘汰されることの無い確固たるメッセージが籠められ、時代を超える普遍性を持ち得た映画だからこそ優れているのです。時代を超える普遍性を持ち得た映画に籠められたメッセージは、100年近くの時を超えて、私たちに何を訴えかけるのか、是非感じ取ってみて下さい。